

石見活性化キャンペーン企画

明日へつなぐ

<34>

景観

第6部 石州瓦⑤

赤瓦の街並みが残る江津本町地区。美しい景観を生かして町づくりが進められている。江津市江津町



赤瓦景観 石州赤瓦は江戸時代後半以降、北前船や江の川の水運によって日本

各地に伝来。中国地方では江津市や大田市のほか、出

クリック



江津市や大田市のほか、出
りや街並みとの調和を重視
したことなど、赤瓦の街並みが残る。

「経の巻」と呼ばれる巻物に似た飾り瓦が、職人の手仕事によってみるみる姿を現していく。土を彫り進める見事なへらさばきを、周りに陣取った観光客が声を出すのも忘れて見つめた。ことし3月、大田市大森町の石州瓦メーカー・セラミカの工場見学を組み入れた世界遺産・石見銀山観光ツアー。広島から約40人が参加した。「現場を見ることで、瓦がどうやって作られているかよく分かって作られたアシケートに、企画に携わっ

た同社営業部長の吉田芳英さんは「瓦景観は日本が誇る文化」と言い切る。吉田さんは「瓦景観は日本が誇る文化」と言いつた。吉田さんは「瓦景観は日本が誇る文化」と言いつた。

10年前、イタリア・フィレンツェを旅行し、赤瓦と自身も暮らす石見銀山のお膝元「大森」を彩る赤瓦景観について、工場見学を通じてより深く理解してもらおうと開催。美しい景観への興味を入り口に、瓦そのもののへの関心を高めてもらえた。さらに、「わたしたちは見るよう、知恵を絞る日があ

始。10年までに468件、補助する制度を独自に開設した場合、最大30万円を趣深い地域だ。江戸や明治期の面影が残る家ではなく、この町に住ん続く。江戸や明治期の面影が残る家ではなく、この町に住ん続く。

して家を建てる人が少なくない」と話した地元住民の誇り高き言葉が胸に響いた。吉田さんは「瓦景観は日本が誇る文化」と言いつた。

◇ ◇ ◇ ◇

組みどし、町(地区)全体

でいきたいし、それだけの

◇ ◇ ◇ ◇

での統一感のある景観づく

ての統一感のある景観づく

◇ ◇ ◇ ◇

財産がこの街並みにはあ

る」と胸を張る。

◇ ◇ ◇ ◇

りを推奨。市内で唯一、協

定を締結した江津本町地区

◇ ◇ ◇ ◇

市はこのほか、小中学生

を対象とした「赤瓦の住宅

◇ ◇ ◇ ◇

・街のみ絵画コンクール」

を開催し、次世代への浸透

◇ ◇ ◇ ◇

も推進。市都市計画課の山

本雅夫係長は「全国に誇れ

◇ ◇ ◇ ◇

る景観として継承していく

ためには、さらなる市民理

◇ ◇ ◇ ◇

解が必要だ」と将来を見据

えている。

地域の伝統 未来へ継承を

えている。

約7千万円を交付し、屋根

江戸時代から石見に根付

面積約7万8千平方㍍の赤瓦化を後押しした。

江戸時代から石見に根付

自治会単位で赤瓦を使う

江戸時代から石見に根付

よう住民協定を結んだ地域

江戸時代から石見に根付

は、補助額がアップする仕

江戸時代から石見に根付

活(い)かしたまちづくり

江戸時代から石見に根付

推進協議会」を設立。事務局長の村川立美さん(62)は

江戸時代から石見に根付

活性(い)かしたまちづくり

江戸時代から石見に根付